

令和3年度事業報告

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(8)
3. 編集委員会	(8)
4. 学術委員会	(9)
5. 統計調査委員会	(11)
6. 専門医制度委員会	(12)
7. 国際学術交流委員会	(13)
8. 評議員選出委員会	(14)
9. 保険委員会	(15)
10. 倫理委員会	(15)
11. 腎不全総合対策委員会	(16)
12. 危機管理委員会	(17)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(18)
14. 男女共同参画推進委員会	(18)
15. 感染対策委員会	(19)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(20)
(2) 監事	(20)
(3) 評議員	(21)
(4) 退任した役員等	(26)
(5) 役員等の報酬等	(26)

② 会員に関する事項	(27)
------------	------

③ 職員に関する事項	(27)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(27)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(33)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(33)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(34)
2. その他の記載事項	(35)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第66回日本透析医学会学術集会・総会は、社会医療法人川島会川島病院 副院長 岡田一義会長が主宰し、2021年6月4日（金）、5日（土）、6日（日）の3日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。

（※2021年6月4日（金）～6日（日）のLIVE配信を併用した。）

今回のテーマは「チームの俯瞰・発想・行動力～良質な医療とケアの発信～」を掲げて開催し、参加者は13,462名であった。

<会長講演>

「良質な医療とケアを提供するコミュニケーションの実践」

<会長特別講演>

「わが国におけるオンライン HDF のエビデンス発信を目指して」、「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」、「良質な医療とケアを提供する「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の正しい理解と普及を目指して」

<招請講演>

Eric D. Weinhandl (Chronic Disease Research Group, Hennepin Healthcare Research Institute, USA/ Department of Pharmaceutical Care and Health Systems, University of Minnesota, USA), Christoph Wanner (University of Würzburg, Hospital, Division of Nephrology, Germany), Allan J. Collins (University of Minnesota, USA), Bernard Canaud (Montpellier University, School of Medicine, France/Teaching University Hospital, France/Global Medical Office, FMC Deutschland, Germany), Nilka Ríos Burrows (Centers for Disease Control and Prevention, Division of Diabetes Translation, USA)

<特別講演>

「医療技術とシステム（COVID-19 対策を含む）のグローバル展開」、「透析医療の政策提言（我が国の感染症対策、健康医療戦略等について）」、「これからの社会保障～2025年の先、2040年を見据えて～」、「虚血性心疾患を有する慢性腎不全症例に対する治療戦略」、「令和4年度診療報酬改定に向けて」、「COVID-19のこれまで、そしてこれから」、「透析患者の老化対策」、「腎臓病および透析関連合併症に対するAIM創薬」、「透析の基礎理論と臨床工学」、「様々な立場から腎不全医療に関わる事で得られたもの～一人称で考えることの価値～」、「透析患者と共に歩む看護」、「わが国の透析医療の世界に向けた情報発信」、「チーム育成とコミュニケーションのコツ」、「未来を見据えた病院経営の在り方」、「オンライン HDF の到達点」

<教育講演 I >

「透析用水・透析排水の適正管理」、「腎性貧血診療指針」、「透析チーム医療指針と迷惑行為対策指針」、「透析室臨床倫理指針」、「末梢動脈疾患合併透析患者診療指針」、「糖尿病透析患者診療指針」、「在宅血液透析診療指針」、「腹膜透析診療指針 2021」、「腎移植診療指針」、「アクセス診療指針」、「CKD-MBD 診療指針」、「心疾患合併透析患者診療指針」、「透析治療モード選択指針」、「透析室感染症対策指針」、「透析患者の栄養管理」、「アフレスシス診療指針」、「生命予後を改善する透析患者総合管理指針」

<教育講演 II >

「血液透析患者における心血管合併症ガイドライン 2011～その後の進展～」、「オンライン HDF の有用性」、「長時間血液透析の効果」、「透析患者の C 型ウイルス肝炎治療ガイドライン 2011～その後の進展～」、「腹膜透析の長期継続を目指して」、「アクセストラブルの対処法」、「透析排水の適正管理」、「骨折のリスクと

対策], 「透析患者の代謝異常 1」, 「透析患者の代謝異常 2」, 「透析患者の血管障害」, 「多発性嚢胞腎の最前線」, 「透析患者の栄養管理」, 「血液浄化の最近の話題」, 「透析患者の泌尿器科・外科管理」, 「腎移植 up to date」, 「トラブル防止のためのアクセス作製術」

<合同シンポジウム>

「透析患者における脳血管障害の予防と治療の特殊性」, 「透析療法における計測と制御の技術利用」, 「透析患者における経腸栄養と静脈栄養 up to date」, 「療法選択と保存的腎臓療法選択における透析 professional のあり方」, 「透析患者における認知症の予防と対策」, 「透析医・かかりつけ医・在宅医との連携」, 「透析患者における感染症対策 up to date」

<シンポジウム>

「腎性貧血治療薬の使い分け」, 「腹膜透析の新たな展開」, 「透析治療における人工膜が目指すべき到達点」, 「透析患者における運動療法」, 「透析領域における超音波検査 Up to date 2021」, 「透析療法における新技術の進歩とその期待」, 「エビデンスから見える急性血液浄化の効果」, 「先行的腎移植患者と献腎移植待機患者の現状と課題」, 「小児期透析医療と移行期の現状と課題」, 「透析の医療とケアにおける patient-reported outcomes による QOL 評価」, 「透析患者さんのかゆみと痛みをやわらげたい」, 「多職種で紡ぐ VAIVT」, 「要介護透析患者を支える看護と介護の連携」, 「最適な透析療法を目指して」, 「高齢患者・認知症患者におけるバスキュラーアクセス管理」, 「CKD-MBD と貧血のクロストーク」, 「過疎化地域における透析医療の課題とその対策」, 「透析患者における糖尿病合併症の重症化予防」, 「腎移植の現状と課題」, 「高齢透析患者の抱える諸問題への取り組み」, 「透析合併症対策の論点・争点と必要な解決策」, 「健康寿命を延ばすための保存期 CKD から維持透析期の栄養管理の在り方」, 「透析患者の炎症を科学する」, 「在宅腎不全治療普及のために克服すべき課題と展望 2021」, 「バスキュラーアクセス治療の潮流」, 「療法選択, 導入期, 維持期, 人生の最終段階におけるサイコネフロジー」, 「透析療法と OncoNephrology」, 「災害対策～東日本大震災 10 年を振り返って～」

<日台韓合同シンポジウム>

「COVID-19 on Kidney disease Patients in East Asian country」

<企業共催シンポジウム>

「CKD-MBD Up-to-date」, 「リン厳格管理の臨床的意義～コホート・RCT から得られた知見より～」, 「Calcimimetics の新たなエビデンス」, 「新たな時代の透析液組成を考える」, 「鉄がつかぬ透析合併症の病態と治療」, 「VAIVT における IN.PACT AV DCB への期待」, 「腎性貧血」, 「DOPPS シンポジウム」, 「腎性貧血に関する基礎・臨床の最新知見」, 「環境の変化から今後求められる透析医療とは」, 「PD 療法の現状と展望」

<ワークショップ>

「新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害に備える～透析療法の新たな形～」, 「透析患者における内分泌異常と心血管イベント・生命予後」, 「透析医療と artificial intelligence」, 「透析患者の暮らしを支えるケア」, 「末期腎不全患者における緩和ケアのあり方」, 「パンデミックにおける腎不全医療」, 「チーム医療から考える医療者働き方改革」, 「透析に関する共同意思決定とアドバンス・ケア・プランニングの実践」, 「透析患者における微量元素およびビタミンの異常と生命予後」, 「透析療法における遠隔診療のあり方」, 「認知症患者への支援」

<コメディカル透析セミナー>

「各種血液浄化の原理と特徴」, 「拡大する適正透析の概念」, 「透析中モニターの種類と特徴」, 「透析室の抜針対策」, 「透析室内ヒューマンエラーの根絶に向けて」, 「透析室タスク・シフト／シェア」, 「やりがいにつながる教育内容の工夫」, 「透析領域における臨床工学技士の人材育成～知識と技能における初期教育と生涯教育～」, 「透析患者の骨折予防管理」, 「エコーを用いたバスキュラーアクセス管理」, 「カテーテル管理のポイント」, 「透析患者のかゆみ対策」, 「糖尿病透析患者への支援」, 「療法選択と自己管理における心

理的ケア],「共同意思決定の実践」,「ACP の実際」,「保存的腎臓療法と緩和ケア」,「高齢透析患者の在宅支援」,「当院における倫理コンサルテーションの現状と課題」,「血液透析患者における口腔疾患治療指針」,「透析患者のフットケア」,「認知症透析患者ケアのポイント」,「精神疾患合併透析患者の支援」,「透析患者における使用頻度の高い薬物の注意点」,「透析患者の運動療法」,「透析患者のサルコペニア・フレイル対策」,「コメディカルが習得必要な心電図知識」,「透析室スタッフが習得必要なシャントエコー技術」,「県単位での腹膜透析普及への取り組み」,「末期腎不全チーム医療」,「透析患者のカーボカウントによる血糖コントロール」,「在宅血液透析患者 (HomeHemoDialysis) の現状と支援」,「シンプル PD」,「高齢腹膜透析患者の在宅医療支援のあり方を考える」,「献腎登録から腎移植までの支援～東邦大学医療センター大森病院の取り組みをもとに～」,「腎移植後透析再導入時の支援」

<学会・委員会企画>

「COVID-19 感染を振り返る」,「TSUBASA PROJECT—透析と性差—」,「専門医制度の現状と課題」,「腎代替療法の選択の新しい流れとその評価」,「2022 年度診療報酬改定に望む」,「血液浄化に関する新技術検討小委員会」,「腎代替療法専門指導士創設へ向けて」,「統計調査で見る透析医学 この 10 年」,「Year in review 2020 Part1」,「With コロナ時代の災害対策」,「血液浄化の機能と効率に関する小委員会 ヘモダリアフィルターのパフォーマンス評価」,「Year in review 2020 Part2」

<国際学術交流委員会プログラム>

「COVID-19 in dialysis patients with and after COVID-19」,「The Present Status and Problems of the International Collaboration of Dialysis Therapy」

<企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

<その他>

6月4日(金) 医療倫理講習会

6月5日(土) 医療安全講習会

6月6日(日) 感染対策講習会

※6月4日～6日(金～日) オンデマンド配信 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会

第 66 回通常総会開催:2021 年 6 月 3 日(木) 16:00～横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜会議センター 301+302 において, 開催した。定款第 30 条に基づき, 定足数以上の評議員の出席が確認され, 本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき, 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会会長である岡田一義会長が議長を務めた。

各常置委員会委員長から資料に基づき, 令和 2 年度事業報告および令和 3 年度の事業計画の報告があり承認された。令和 2 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等, 監事による監査報告があり承認された。定款施行細則第 2 条第 2 項に基づき, 名誉会員として重松 隆先生, 宍戸寛治先生が理事会で承認され, 本総会に推薦され承認された。令和 6 年第 69 回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として東邦大学 酒井 謙先生が理事会で選任され, 本総会で承認された。引き続き, 定款第 13 条に基づく役員を選任において, 特例により事前投票を実施した投票用紙を議場にて開票し役員(理事 20 名, 監事 3 名)を選任した。定款施行細則第 10 条第 2 項に基づき, 推薦幹事として高橋直子評議員と廣谷紗千子評議員が推薦幹 2 名の女性理事候補者として理事会で選任され, 本総会で承認された。

また, 理事会で承認され, 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会に名誉会員として推薦され承認された重松 隆先生, 宍戸寛治先生および第 65 回日本透析医学会学術集会・総会で名誉会員として推薦され承認された安藤亮一先生, 稲葉雅章先生, 仲谷達也先生, 藤元昭一先生, 峰島三千男先生, 八木澤隆先生の名誉会員表彰と第 66 回日本透析医学会学術集会・総会および第 65 回日本透析医学会学術集会・総会の学会賞, 奨励賞, コメディカルスタッフ研究助成者に, 2021 年 6 月 5 日(土) 会議センターメインホールで授賞式を行

い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2021年5月15日（土）（WEB開催）・6月3日（木）・7月31日（土）（WEB開催）・12月10日（金）・2022年3月18日（金）に開催

(2) 監事による監査会開催：2021年5月11日（火）に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD分野）に関しては本年度問題提起されず活動を行わなかった。腎代替療法専門指導士の応募専門資格については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と協議を行った。

(3) 統計調査のあり方小委員会（武本佳昭委員長）

統計調査データのWEB収集及びEDC（electric data capture）システムに関わる調査等を開始した。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

① 東南アジア8か国の透析スタッフ（医師、看護師、その他）に、わが国の透析施設で研修を実施するプログラムは、コロナ禍の影響を受け、2019年度（2020年2月実施予定）分から3期連続で中止した。

② インターネットを利用した遠隔研修は、既に個別の活動団体で行われていること、現地に信頼できるスタッフの確保が難しいこと、現地のコロナ禍も大変な状況にあること、時差があること、一定の費用が発生すること、などの問題を解決できず進展できなかった。

(5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）

公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。

(6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

① 第66回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページMyWebにアップし、専門医は単位取得できるようにした。

また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。

② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。

③ 単位の認定に関しては、出題された5問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に戻り繰り返し視聴できるようにした。

(7) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）

2017年10月29日病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。

2021年度の進捗であるが、現在まで先進医療B症例は、当該医療機関から申請されていない。なお2021年度において、外部委員の名簿の確認が、先進医療B施設（当該医療機関）から要望された。

(8) 書籍発行運営委員会（長谷川元委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討していくこととしていたが、本年度は該当がなかった。

(9) 新型コロナ感染対策合同委員会（竜崎崇和委員長）

日本透析医会，日本腎臓学会と合同で活動している「日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会 新型コロナウイルス感染対策合同委員会」に，日本透析医学会感染対策委員会から数名の委員を派遣し，他の2学会と協調し，透析患者の感染状況の報告を取りまとめ，開示し得る情報や感染対策などをホームページ等にて会員や一般市民に開示・周知した。

(10) 日本専門医機構担当理事（中元秀友委員長）

透析専門医を日本専門医機構から認定を受けることを目指して専門医制度委員会が中心となり検討を重ねてきたが2020年度サブスペシヤルティ領域の認定には至らなかった。そこで，2021年7月に常置委員会改組の際に総務委員会に日本専門医機構担当理事の組織を設けて専門医制度委員会と協同して日本専門医機構に働きかけることとした。

2021年12月に2020年度に引き続き日本専門医機構及びサブスペシヤルティ領域検討委員会からサブスペシヤルティ領域専門医の審査，認定について申請依頼があった。本学会の専門医は内科系専門医が73.8%で泌尿器科系専門医が15.6%であるため，カテゴリーAのサブスペシヤルティ領域に申請することとなり，2021年12月に日本内科学会 専門医制度審議会の内科サブスペシヤルティ領域 審査協議会に申請した。

日本内科学会から2022年度内科サブスペシヤルティ領域の審査結果として本年度も日本専門医機構への新規認定領域，学会認定機構承認としての推薦を見送るとの通知があった。なお，今後は関係領域学会との協議が必要とのことで，新規に内科サブスペシヤルティ領域審査協議会の下に当該領域に関する個別協議会（透析領域のワーキンググループ）を設置して協議していくこととなった。

(11) 台湾，韓国，本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

JSDT2021（2021年6月）：Topic：COVID-19

Moderator

TSN

Yung-Chang Chen

（陳永昌）

長庚大学附属基隆病院（Department of Nephrology, Chang Gung Memorial Hospital, Keelung）

KSN

Sung Gyun Kim

Hallym University Medical Center, Ilsong Educational Foundation

JSDT

土谷健

（Ken Tsuchiya）

東京女子医科大学（Department of Blood Purification, Tokyo Women's Medical University）

Speaker

TSN1

Yih-Ting Chen

（陳奕廷）

長庚大学附属基隆病院（Department of Nephrology, Chang Gung Memorial Hospital, Keelung）

Peritoneal dialysis in a Taiwan medical center

KSN

Hayne Cho Park

Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Yeungnam University Hospital, Daegu, Korea

The role of COVID-19 task force team in prevention of viral transmission among HD unit
JSDT

竜崎崇和

(Munekazu Ryuzaki)

東京都済生会中央病院 (Department of Nephrology, Tokyo Saiseikai Central Hospital)

COVID-19 status and therapy in Japanese dialysis patients

KSN2021 (2021年9月ハイブリット開催) : Topic : Renal Anemia

Moderator

TSN

Jin-Shuen Chen

(陳金順)

高雄榮民総医院 (Kaohsiung Veterans General Hospital, Taiwan)

KSN

Won Kim

Chonbuk National University

JSDT

本田浩一

(Hirokazu Honda)

昭和大学 (Showa University)

Speaker

TSN

Ko-lin Kuo

(郭克林)

Taipei Tzu Chi Hospital (台北慈濟病院)

Anemia management in patients with chronic kidney disease : Taiwan practice guidelines and outcome analysis

KSN1

Hyo Jin Kim

Pusan National University

Renal anemia in Korean dialysis patients & The role of iron replacement therapy

KSN2

Jwa-Kyung Kim

Hallym University

New Expectation of Renal Anemia Management

JSDT

倉賀野隆裕

(Takahiro Kuragano)

兵庫医科大学 (Hyogo Medical University)

The role of HIF-PH inhibitor in the physiological erythropoiesis

TSN2021 (2021年12月) : Topic : Vascular Access

Moderator

TSN

I-Wen Wu

(呉逸文)

長庚大学附属基隆病院 (Department of Nephrology, Chang Gung Memorial Hospital, Keelung)

KSN

Yong-Soo Kim

The Catholic University of Korea

JSDT

重松隆

(Takashi Shigematsu)

りんくう医療センター

Speaker

TSN1

Chih-Ching LIN

(林志慶)

Taipei Veterans General Hospital (台北榮民総医院)

Non-Surgical Factors Affecting the Patency of Vascular Access in Hemodialysis Patients.

KSN

Sung Gyun Kim

Hallym University Medical Center, Ilsong Educational Foundation

Current status of Interventional Nephrology in Korea

JSDT

池田雅人

(Masato IKEDA)

The Jikei University School of Medicine, Kashiwa Hospital (慈恵医科大学柏病院)

Interventional nephrology : current status and clinical impacts in Japan

(12) VA 血管内治療認定医制度検討小委員会 (深澤瑞也委員長)

日本透析医学会理事会においてVA 血管内治療認定医制度の発足が2021年1月26日に決議され、同認定制度の制度設計を担う目的に本VA 血管内治療認定医制度検討小委員会が総務委員会内に設置された。

2021年11月12日2021年度第1回委員会、ならびに2022年2月7日第2回委員会がWEBで開催され、昨今VA関連の新規デバイスが上市され、それに伴う適正使用指針策定が関連学会で作製することが、国より求められている。再狭窄予防薬剤塗布バルーン(DCB)承認にあたり関連学会として日本透析医学会が参画し、その際に技術担保としてVA 血管内治療認定医が術者要件として指定された。今後、同様に新規デバイスが上市された際の受け皿としても、また本会会員に不利益が生じないように本制度を立ち上げる必要があることが共通認識として確認された。制度設計にあたっては本会の専門医・指導医に不利益のないような方向性ならびにDCB 適正使用指針策定協議会に属する他学会との資格の厳しさに不公平のないようなものとする事が確認された。

上記に基づいて認定制度の規則、施行細則などを年度内に作成し理事会承認を受け会員に周知し、来年度に第1回の募集を行うこととなった。

6) 学会との連携、協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 透析療法合同専門委員会, (5) 内科系学会
社会保険連合, (6) 外科系学会社会保険委員会連合, (7) 臓器移植関連学会協議会, (8) 末期腎不全治療
説明用小冊子作成, (9) 糖尿病性腎症合同委員会, (10) 登録腎生検予後調査検討委員会, (11) 先行的献腎

移植申請検査会, (12) 透析医療に関するグランドデザイン, (13) 日本透析医会との連絡協議会, (14) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力, 連携を密にしていく.

2. 財務委員会

2021年度事業として, 日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した. また, 各事業に対して経費節減を心がけ, 2022年度予算を作成した.

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊, 年間12冊を発行した.
- (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行した. ただし, 郵送は希望者のみに限定した.
- (3) 年間1回を目安として特集号を組む予定であったが, 実現できず. Invited Reviewとして「保存的腎臓療法の情報提供に関わる透析 professional のあり方」を2021年和文誌54巻11号に掲載した. COVID-19に関する特集号を2022年和文誌55巻2号に掲載した.
- (4) 委員会報告として, 「保険委員会報告 血液透析用カテーテル挿入手技に係る実態調査」を2021年和文誌54巻2号に, 「透析排水管理に必要な除害施設の導入: 東京都23区内を例として」を2021年和文誌54巻3号に, 「危機管理委員会報告 経験に学ぶ透析医療の災害対応」を2021年和文誌54巻4号に, 「危機管理委員会報告 透析災害対策のアップデート」を2021年和文誌54巻7号に, 「2020年度透析専門医勤務・診療状況ならびに透析専門医の男女共同参画の実態に関するアンケート調査報告」を2021年和文誌54巻8号に, 「危機管理委員会報告 透析療法における医療安全を考える」を2021年和文誌54巻9号に, 合計6編掲載した.
- (5) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2021年和文誌54巻12号に掲載した.
- (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2020 year in review」を2021年和文誌54巻12号に掲載した.
- (7) 2021年の掲載論文は, 総説3編, 原著26編, 症例報告36編, その他(短報, 透析看護・技術, 研究速報, ガイドライン・委員会報告, Letter to editor など) 20編の計85編の掲載であり, 2020年の計61編を大きく上回った.

2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で, CC-BY の著作権で引き続き発行した.
- (2) Google Scholar 並びに DOAJ, Scopus, ProQuest, EBSCO, NAVER, などでの Index 化が完了した. この結果, SJR (Acimago Journal & Contry Rank) リストに登場した.
- (3) 他の検索システム ESCI, Web of Science への Index 化申請を2020年中に行い, 収載された. 現在審査結果待ちの状況である. MEDLINE については Springer Nature 社より全てのジャーナルで収載申請を停止する指示が出されており, 未申請の状態である.
- (4) PubMed Central での Index 化の再申請を2020年に行ったが, 不採択の審査結果であった. 2年後の2023年6月に再申請予定.
- (5) RRT 誌が新たに日本血液浄化技術学会の公式英文誌として採用された. 今後, Springer Nature 社と日本血液浄化技術学会の間で契約予定.
- (6) 2020年度(2020年4月~2021年3月まで)では, 129編の論文投稿があった. 以上より目標の年間論文投稿数100を達成できた. 2021年度は2月18日時点ですでに141編の投稿あり.
- (7) 2020年(2020年1月~2020年12月までの集計)では, 論文採択率は60%であった.
- (8) 2020年(2020年1月~2020年12月までの集計)では, 我が国を含む世界17ヵ国からの投稿があった.

3) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

(1) 2021 年末をもって公式欧文誌から離脱した。ただし、TAD 誌は引き続き Wiley 社により出版継続される予定である。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

令和3年度の学会賞は次の2編であり、6月5日の第66回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。(敬称略)
中野敏昭

Higher Cholesterol Level Predicts Cardiovascular Event and Inversely Associates With Mortality in Hemodialysis Patients: 10-Year Outcomes of the Q-Cohort Study.
Therapeutic Apheresis and Dialysis 2020; 24(4): 431-8.

中川洋佑

Metacarpal bone mineral density by radiographic absorptiometry predicts fracture risk in patients undergoing maintenance hemodialysis.
Kidney Int 2020; 98(4): 970-8.

<奨励賞>

令和3年度の奨励賞は次の1編であり、6月5日の第66回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。(敬称略)
角谷裕之

Klotho is a novel therapeutic target in peritoneal fibrosis via Wnt signaling inhibition.
Nephrol Dial Transplant 2020; 35(5): 773-81.

2) 学術委員会活動(ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動)等に関する協議

(1) 学術委員会の会合を定期的に開催し、関連小委員会と共同して学術活動に関して協議を行った。

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを、学術委員会主体で行うこととし、統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムについての検討協議を重ねる。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ(菅野義彦委員長)

報告: 2019年度までに行われた透析患者における低栄養の評価法に基づき、第66回日本透析医学会学術集会・総会において介入方法に関する基本的な議論を行った。

5) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ(倉賀野隆弘グループ長)

「2015年版 日本透析医学会 慢性腎臓病における腎性貧血治療ガイドライン」の改訂に取り掛かった。

6) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキング(深川雅史グループ長)

理事会でワーキンググループの立ち上げが承認された後、濱野副委員長と相談の上、委員を選出し、内容を章立てごとに分け、担当を決定した。初めに、委員全員によるキックオフミーティングをリモートで行い、作成方針、作成手順案を提示して討論した。次に、各章ごとに、方針についてウェブ会議を開催した。解析に当たって、十分なエビデンスがありシステマティックレビューが可能なものを選んでCQ案の吟味を開始した。また、システマティックレビューを行う要員の候補のリストアップを始めた。一方、エビデンスが十分でないものに関しては検討の上、日本透析医学会のデータベースの解析計画を立て、委員会研究として申請した。

7) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ(阿部雅紀グループ長)

「日本透析医学会 血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」の改訂のワーキンググループ(阿部雅紀委員長) 本学会からの委員および外部委員(日本腎臓学会, 日本糖尿病学会)の選定を行った。

- 8) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）
新規ワーキンググループ立ち上げのため委員を選出した。各委員より COI 開示を受けて正式に理事会承認を得た。
- 9) 小委員会活動
- (1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）
- ① 2015年から開催している Dialysis Therapy, 2020 year in review を第66回日本透析医学会学術集会・総会（2021年6月）において委員会企画として開催した。
 - ② 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2020 year in review の発表内容を原稿にして学会誌に掲載した。
- (2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）
- ① 日本透析医会、JACE との3団体共同「透析排水管理ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」：透析排水の適正管理に関する検討ならびに啓発活動を行った。その成果の一部を委員会報告「透析排水管理に必要な除害施設の導入：東京都内23区内を例として」（透析会誌2021；54(3)：119-22.）にまとめた。また2021年10月25日にワーキンググループの会議をwebにて開催した。
 - ② ISO・IEC 対策 ワーキンググループ（川西秀樹委員長）：ISO・IEC 対策 ワーキンググループ：ISO・IEC 会議（WEB会議）に委員を派遣し、日本の見解を反映させた。特にISO23500（透析液関連）、ISO8637（透析器、回路関連）に関して討議が行われた。
 - ③ ヘモダイアフィルターの機能分類について引き続き検討を行い、第66回日本透析医学会学術集会・総会「学術委員会企画 ヘモダイアフィルターの性能評価」を開催した。
- (3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
- ① 第66回日本透析医学会学術集会・総会の「血液浄化に関する新技術検討小委員会企画」において、本小委員会での成果を発表した。会場の数十名+オンライン参加であったため、発表の反響は不明であるが、5演題のうち2演題が人工知能（AI）に関する内容であり、委員間のコラボレーション（心筋細胞に関するシミュレーションと *in vitro* 試験）の報告も含め、学術性の高く、新規な内容を議論することができた。
 - ② 血液浄化法の新しい可能性を志向する他の研究会（日本次世代人工腎研究会）において、本小委員会の成果をベースにした特別セッションを計画していたが、コロナ禍の影響で研究会は中止となり、実現できなかった。
- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）
- ① 体験参加型セッションの開催
 - ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催の2つを計画したが、COVID-19の影響で開催には至らなかった。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）
コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。今年度は以下の2名への助成が決定した。（敬称略）
- ① 小野淳一
「牛血液実験系によるシングルニードル透析（SND）の透析効率低下機序の解明」
 - ② 加藤孝昭
「重症患者の免疫・血栓学的プロファイルの異質性に着目した持続的腎代替療法の回路早期閉塞発生メカニズムの探索」
- (6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）
透析および関連領域における用語の統一性を確立することで会員の知識および学術的な記載（論文、学術発表など）に普遍性を持たせる目的で透析医学用語集が平成19年に作成されたが、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とした。日本腎臓学会との連携を確認し、改訂

作業に入った。

5. 統計調査委員会

- 1) 2020年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告
 - (1) 「わが国の慢性透析療法の現況(2020年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌54巻12号に掲載した。
 - (2) CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況(2020年12月31日現在)」を調査協力非会員施設に送付した。(今回から施設会員には送付せず、学会ホームページ、WADDAシステムをご参照いただく)
 - ① 上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。
 - ② 上記現況報告のPDFファイル、PPTファイルを学会ホームページに掲載した。
 - ③ 2020年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム(自動集計、研究データ切出し)に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム(自動集計)の2020年版を公開した。
- 2) 「わが国の慢性透析療法の現況(2019年12月31日現在)」をAnnual Dialysis Data Report 2019, JSDT Renal Data Registry(JRDR)として投稿・掲載予定としている。
- 3) 2021年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
 - (1) 新規調査項目として、災害対策、新型コロナワクチン接種について調査の実施を行った。
 - (2) 2021年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後UMINに公開した。
 - (3) 全国の透析施設に対して2021年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。
 - (4) 2022年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。
- 4) WADDAシステム(自動集計システム、学術研究用データ切り出しシステム)の改善
 - (1) WADDAシステム(自動集計システム)については、選択年切り替え時の条件自動リセット機能を追加した。
 - (2) WADDAシステム(研究切り出しシステム)については、過去に切り出したデータについて削除する機能を追加した。
- 5) 統計調査のデータベース作成の改善
 - (1) 統計調査データベース作成の際の名寄せ処理精度を更に上げるため、システムを一部改善した。
- 6) 第66回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。
 - (1) 統計調査委員会企画「統計調査で見る透析医学 この10年」
- 7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - (1) 学術委員会等他委員会と協力の上JRDRデータベースの解析、論文化を解析小委員会中心に行った。
 - (2) 2021年はJRDRを用いた研究結果 英文8編、和文3編が掲載された。
- 8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - (1) JRDRの調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。
- 9) 国内・国際協力の推進
 - (1) 米国腎臓データシステム(USRDS)に対して、データ提供を行った。
 - (2) 国際腎臓学会(ISN)主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトであるSharE-RRへの参加を行い、Web会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員会の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) JRDRを用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2021年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 2021年12月9日に日本内科学会 専門医制度審議会 内科系サブスペシャリティ領域審議会から、新規申請について連絡があった。なお、第66回日本透析医学会学術集会・総会 会長特別企画2「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」の質疑応答において、日本専門医機構理事長から、複数の基本領域カテゴリーC（総合内科専門医，泌尿器科専門医，小児科専門医，外科専門医，救急科専門医，総合診療専門医を基本領域）での申請の可能性について話していただいたが、現状のルールからカテゴリーA（基本領域：総合内科専門医）として申請しなければならず、本学会の専門医数のうち74%を占める日本内科学会に内科サブスペシャリティ領域審査協議会への参加を、16%を占める日本泌尿器科学会に同意を得て依頼した。2022年2月24日内科専門医制度審議会との会議で、総合内科専門医以外の基本領域専門医は、内科専門医と同等な診療能力を有する研修が必要なことを提示され、内科サブスペシャリティ領域個別協議会（透析領域）を設置することで合意し、3月22日に個別協議委員の推薦依頼があったが、本年度も日本専門医機構への「新規認定領域」「学会認定機構承認」としての推薦を見送るとの回答があった。
- (2) 全国規模学術集会・地方学術集会の認定継続は、一度認定されると自動的に継続としていたが、適切な学術集会の運営がなされていることを確認することに変更した。その認定継続について、毎年8月までに、前年度プログラム、収支報告書、議事録を提出し、審議の結果、継続不可と決定された場合には翌年の4月から取り消す認定取り消しについての記載を追加したが、新型コロナウイルス感染により延期・中止する学術集会があり、2023年度から実施するための準備を行う。

2) 研修プログラム小委員会

- (1) 研修プログラム第3版の改訂作業に当たり、基本領域学会の研修プログラムの内容を評価した。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医・指導医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医・指導医には一定の研修単位（5単位）を認定した。なお、専門医更新・指導医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄（消印有効）で実施し問題・正解・解説は8号に掲載した。
- (2) 提出されたe-ラーニング問題のブラッシュアップを実施した。

4) 専門医認定小委員会

- (1) 症例要約のフォーマットを2021年から変更したので、2022年度申請者は変更前のフォーマット使用を認め、2023年度申請者からはすべて新フォーマットとした。
- (2) 2020年度申請者の高得点症例要約から症例要約を選定し、申請者の同意を得てブラッシュアップをし、ホームページに掲載した。
- (3) 専門医認定制度に係る諸問題検討ワーキンググループで地域偏在・施設偏在の解消に関する施策を検討し、地域医療への配慮として、地域偏在解消のための仕組み（研修を理由とした地域の医療資源の流出防止策など）、地域枠のある専攻医、専攻医の子育て、留学への配慮、地域医療における医師偏在を悪化させない配慮などを話し合い、各委員から意見を募った。

5) 専門医試験小委員会

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して、試験日を2020年10月18日から2021年4月25日に延期し、さらに8月22日に延期し、会場を東京とした。試験官および受験者は全員ワクチン2回接種者または8月19日または8月20日付の陰性証明書コピー提出者とし、十分な感染対策を実施した。

- (2) 試験官が出張を禁じられる可能性もあり，受験機会均等の原則を厳守し，今後も試験官はリザーブも配置し，2名（内科系，外科系）体制で行う。
 - (3) 専門医認定審査は，今までと同様に書類審査，客観式筆記試験（問題形式はAタイプ，X2タイプ），口答試験の3者の総合的な判断で行い，合否を決定した。合格承認を得られた申請者は，専門医制度規則・施行細則を改正し，2021年4月1日～2022年3月を専門医として認定した。
 - (4) 優良な試験問題を正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上と定義し，過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し，すべてのプール問題の見直しを実施し，約800題を管理している。
 - (5) 専門医認定試験に倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を出題した。
 - (6) 不正防止のため，教育責任者への確認と入院症例要約のサンプリングを継続した。
- 6) 施設認定小委員会
- (1) 日本専門医機構専門医制度にいつでも対処可能なように専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成に努めた。

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第66回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

I. シンポジウム

Symposium1 国際学術交流委員会プログラム

The Committee of International Communication for Academic Research (CICAR)

COVID-19 in dialysis patients with and after COVID-19

Chairs : Munekazu Ryuzaki, Yoshitaka Isaka

【GI-13-1-1】 Clinical care of patients with end stage kidney disease and COVID-19

Michael Ross

Albert Einstein College of Medicine/ Montefiore Medical Center, USA

【GI-13-1-2】 AKI in COVID-19

Kent Doi

Department of Emergency and Critical Care Medicine, The University of Tokyo, Japan

【GI-13-1-3】 Current status and countermeasure for COVID-19 in dialysis patient

Kan Kikuchi

Division of Nephrology, Shimoochiai Clinic, Japan

【GI-13-1-4】 COVID-19 Infection in Korea

Jang-Hee Cho

Kyungpook National University School of Medicine, Korea

Symposium 2 国際学術交流委員会プログラム

The Present Status and Problems of the International Collaboration of Dialysis Therapy

司会：兵頭 透，日高寿美

【GI-13-2-1】 カンボジア王国での医療全般と透析医療における国際支援

海老原慧：1,3，若井陽希：2,3，兵頭 透：3，川西秀樹：3

1：(医) 社団麗星会品川ガーデンクリニック看護部

2：(医) 社団麗星会品川ガーデンクリニック診療部

3：NPO 法人いつでもどこでも血液浄化インターナショナル

【GI-13-2-2】 サブサハラアフリカでの腎不全医療看護支援の経験

塩野恵美子, 日高寿美, 小林修三

(医) 沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院血液浄化センター

【GI-13-2-3】 ミャンマーにおけるメディカルエンジニア育成体制強化プロジェクトの現況

橋村友隆

倉敷芸術科学大学生命科学部生命科学科

【GI-13-2-4】 Current status and issues of medical cooperation for dialysis : the case of Cameroon

Francois Jerome Folefack Kaze

Faculty of Medicine and Biomedical Sciences of the University of Yaounde/ Yaounde University Teaching Hospital, Cameroon

【GI-13-2-5】 Successful and Sustainable Live related Kidney Transplantation Services Establishment at

Benjamin Mkapa Hospital, Dodoma, Tanzania

Kessy Shija, Alphonse Chandika

Benjamin Mkapa Hospital, Tanzania

II. 一般講演 Free Communications

公募は行わなかった。

III. Farewell Reception

実施しなかった。

IV. Travel Grant 等

今回は招聘や海外からの講演を中止したため、Travel Grant 等の支出はなかった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年も見送る予定である。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会への各委員が独自に参加する。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第6回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条, 21条, 22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条, 15条, 16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第6回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とした。
- 3) 同規則第7条に基づき、令和3年会誌10号に選挙の公示をし、10月1日付けで電子公告を行った。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和3年10月1日現在の有権者名簿を、会誌10号に公示し、10月1日付けで電子公告を行った。
- 5) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受けた。
- 6) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受けたが、届出期限である11月20日以降に1名の届出があり、届出を認めないこととした。
- 7) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受けつけたが、自署により1名の立候補辞退届の提出があり、届出を認めた。
- 8) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を令和3年会誌12号に公示し、12月上旬にホームページへの電子公告を行った。
- 9) 同規則第13条に基づき、令和4年2月15日に投票を締め切った。
- 10) 同規則第16条に基づき、投票終了後令和4年2月21日に開票立会人のもとに、開票を行った。

- 11) 同規則第 21 条に基づき、当選者が決定し、当選者に通知し、会誌公示し、電子公告を行った。また、会員専用ページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示した。
- 12) 同規則第 22 条に基づき、選挙結果発表日より 14 日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受けたが、申し立てはなかった。

9. 保険委員会

- 1) 2021 年第 66 回日本透析医学会学術集会・総会の保険委員会企画において「2022 年度診療報酬改定に望む」と題して討議をした。
- 2) 2022 年第 67 回日本透析医学会学術集会・総会の保険委員会企画において「令和 4 年診療報酬改定と明日への希望」と題して下記の項目を企画し討議を予定した。
 - ① 令和 4 年度診療報酬改定全般
 - ② 透析領域の診療報酬改定
 - ③ 今後の改定を目指しいかに攻めるか
 - ④ 内科系学会社会保険連合における取組
 - ⑤ 外科系学会社会保険委員会連合における取組
 - ⑥ 診療報酬改定 クリニックでの対策
 - ⑦ 厚労省・政治的対応と総括
- 3) 外保連に対しての活動：下記①②の透析用カテーテル留置術は、診療報酬上は注射の区分（G コード）に属しており DPC 病院では請求できていなかった。その点を改善すべく外保連から厚生労働省に申請し手術区分（K コード）に再分類され DPC 病院でも請求可能になるよう、医療技術評価提案書を外保連に提出した。しかし、2022 年度改定では再分類はされなかった。
 - ① 経皮的体外循環補助装置設置術 短期型
 - ② 経皮的体外循環補助装置設置術 カフ型
- 4) 内保連に対しての活動：2022 年度改定に際し、下記 5 項目を内保連に提案した。③は申請以上の額で、④は申請額より減額され腹膜透析においてのみ認められた。
 - ① 透析室感染管理加算
 - ② 血液透析アクセス日常管理加算
 - ③ 在宅血液透析管理加算（多職種による）
 - ④ 在宅透析患者管理における遠隔管理加算
 - ⑤ 透析患者導入期と転入期の HIV 抗体検査

10. 倫理委員会

- 1) 倫理委員会の開催
 - (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
 - (2) 「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」臨床研究の実施について審議し承認した。
 - (3) 「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」臨床研究の実施（研究計画書の追加・修正）について審議し承認した。
 - (4) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査 9 件（うち他団体との共同研究 1 件）について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった9件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）

10件申請があり、10件を承認した。

(2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第8条関係）

本件の申請はなかった。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会は、改訂された政府の腎疾患対策検討会の報告書において、従来からのCKD発症予防、重症化の予防のみならず、透析・移植患者のQOLの改善も目標として加わったことを考慮して、活動範囲を広げてきた。2021年度は当初、1) 透析患者QOLに関する包括的検討、2) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況、3) 移行期におけるアクセスの準備状況に関する調査、4) 保存的腎臓療法の実態調査を計画し、1)、2)については調査並びに解析もほぼ終了し、日本透析医学会学術集会・総会における発表並びに日本透析医学会雑誌に結果を発表することが出来たが、3)、4)については、今年度は進展しなかった。一方、以前より検討してきた腎代替療法選択に関しては、現時点でのまとめの意味で、第66回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画シンポジウムを開催した。

1) 透析患者QOLに関する包括的検討

近年、患者中心医療の重要性が増しており、透析医療の評価に際しても、合併症の管理や生命予後の改善といった客観的指標に加えて、今後は患者自身が評価するQOLの主観的指標も重視されてきている。そこで、透析患者のQOL向上を目指すために、患者自身が苦痛に感じ、QOLを低下させている具体的な症状や要因を明らかにし、それらを標準化された尺度を用いて評価するために、(1) 透析患者を対象にした国内のQOL評価研究の実態確認、(2) 透析患者QOLを低下させる要因の確認を行い、(3) 個別の症状に対する評価法（尺度）を提唱するという事業を企画。既にアンケートの送付、回収が終わっており、本年度は、結果の解析を進め、論文作成の準備を行った。また、その内容の一部をもとに、第67回日本透析医学会学術集会・総会において新しい定義に基づいたQOLに関する委員会企画のセッションを提案した。

2) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況

糖尿病性腎症からの新規透析導入患者数が第1位であり、透析の臨床において、糖尿病合併患者が増加している。2013年に、日本透析医学会から「糖尿病血液透析患者の治療ガイド2012」が発刊され、その中には随時(透析開始前)血糖値の目標値として180~200 mg/dL未満が推奨され、中~長期的な指標としてHbA1cではなくGAを用い、20%未満にコントロール（心血管イベントの既往のある場合や低血糖を起しやすいう場合は24%未満）することが推奨されている。保存期糖尿病合併慢性腎臓病(chronic kidney disease:CKD)患者の場合、糖尿病医と連携して血糖コントロールが行われていることは多いが、透析領域では糖尿病合併症例が増加しており、血糖管理を全て糖尿病医に委ねるのは困難な状況である。そこで、糖尿病透析患者の糖尿病治療の実態を把握する目的でアンケート調査を行った。その結果、透析導入前は糖尿病医主導で管理が行われているが、透析導入後は透析医が主導で管理を行っていることが明らかになった。治療内容としては、インスリン使用割合が減少し、DPP-4阻害薬とGLP-1受容体作動薬の使用割合が増加傾向であったが、随時血糖値とGA値の管理は比較的良好であった。透析導入後は透析医が主体となり糖尿病管理を行うことが多いため、その知識と技術を持つ必要があると考えられた。これらの内容は、委員会報告として、日本透析医学会雑誌に投稿した。

3) 日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画

2021年6月に開催された第66回日本透析医学会学術集会・総会において、「腎代替療法の選択の新しい流れとその評価」という委員会企画を開催し、さまざまな方向から、療法選択についてのディスカッションを行った。司会と演者、内容は以下の通りである。

司会：阿部雅紀（日本大学）、寺脇博之（帝京大学ちば総合医療センター）

- (1) 腎代替療法選択における医療スタッフの役割
内田明子（社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院看護部）
- (2) 腎代替療法の選択の新しい流れとその評価
猪阪善隆（大阪大学腎臓内科学）
- (3) 共同意思決定（SDM）の実際と問題点～日本の文化を考慮して～
小松康宏（群馬大学大学院医学系研究科医療の質・安全学講座）
- (4) 腎代替療法の選択の新しい流れとその評価
鶴屋和彦（奈良県立医科大学腎臓内科学）
- (5) 腹膜透析：どの症例にどこまで～コロナ禍における新たな視点をふまえて～
西野友哉（長崎大学病院腎臓内科）
- (6) 腎移植：症例の適応と予後
酒井 謙（東邦大学医療センター大森病院腎センター人工透析室）
- (7) 保存的腎臓療法
深川雅史（東海大学医学部腎内分泌代謝内科）
- (8) 令和4年度の診療報酬改定と腎代替療法選択
中元秀友（埼玉医科大学総合診療内科）

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之委員長）

- (1) 第66回日本透析医学会学術集会・総会（2021年6月4日～6日、パシフィコ横浜）において、災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「With コロナ時代の災害対策」

司会：鶴屋和彦，山川智之

- ① 菊地 勘（下落合クリニック）COVID-19対策を踏まえた災害支援のあり方
 - ② 大石和久（浜松医療センター）災害対策・感染対策におけるLINEWORKSの活用
 - ③ 西村典史（如水会嘉島クリニック）令和2年7月豪雨について
 - ④ 浦田浩史（朝日野会朝日野総合病院）熊本地震から5年を振り返って
 - ⑤ 赤塚東司雄（赤塚クリニック）異常気象と透析医療の災害対応
 - ⑥ 山川智之（仁真会白鷺病院）厚生労働科学研究「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究」の意義と課題
- (2) 第67回日本透析医学会学術集会・総会（2022年7月1日～3日、パシフィコ横浜）において、「透析災害対策の課題と先進事例」をテーマとした災害に関する委員会企画を計画した。
 - (3) 第64回日本透析医学会学術集会・総会（2019年）の委員会企画の内容を日本透析医学会雑誌で報告した。
山川智之，村上和春，川合 徹，奥田重之，古谷隆一，戸澤修平，鶴屋和彦：危機管理委員会報告 経

験に学ぶ透析医療の災害対応. 透析会誌 2021; 54(4): 171-6.

- (4) 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会(2020 年)の委員会企画の内容を日本透析医学会雑誌で報告した。
山川智之, 赤塚東司雄, 佐久間宏治, 花房規男, 川崎路浩, 雨宮守正, 鶴屋和彦: 危機管理委員会報告
透析災害対策のアップデート. 透析会誌 2021; 54(7): 329-36.

3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司委員長)

- (1) 医療事故調査報告制度に協力関体として登録しているが, 医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して, 事故事例のセンター調査を担当している. 本年度は 1 件の依頼があり, 東北ブロックから個別調査部会の部会員 1 名を派遣した.
- (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し, 必要に応じて委員の更新を行った.
- (3) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会(2022 年 7 月 1 日~3 日, パシフィコ横浜)において, 「透析療法における医療安全~長期留置カテーテルへの対応を考える」をテーマとした医療安全に関する委員会企画を計画した.
- (4) 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会(2020 年)の委員会企画の内容を日本透析医学会雑誌で発表した。
山川智之, 赤塚東司雄, 佐久間宏治, 花房規男, 川崎路浩, 雨宮守正, 鶴屋和彦: 危機管理委員会報告
透析災害対策のアップデート. 透析会誌 2021; 54(7): 329-36.
- (5) ホームページの「一般の方へ: 災害に対する備え」における「透析患者さんへ~災害に備えて」の内容に, 新型コロナウイルス感染症の予防・対策を含めた記載を追記した.

13. 研究者の利益相反等検討委員会

日本医学会 COI 管理ガイドライン(一部改定 2022 年版)について, 日本透析医学会でも 2020 年度に引き続き, COI 改定に取り組んだ. また診療ガイドライン策定メンバーにおける COI なども個別に対応し, 委員会で検討を行った. 主な改正点について(下記)を令和 4 年 2 月 12 日の委員会で諮った.

- (1) 日本透析医学会の利益相反(COI)申告様式(様式 2: 日本透析医学会雑誌)の改正について
(2) 日本透析医学会「医学研究の利益相反に関する指針」に関する取扱い細則の一部改正(案)について
(3) 日本透析医学会の利益相反(COI)申告様式(様式 1, 様式 3~4)の一部改正(案)について

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を継続していくこととなった.

2) 小委員会の活動

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会とそれぞれ共同し, 働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが継続して検討することとなった.

(2) 女性医師育成小委員会

① 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会において, 以下の研究報告が行われた.

・第 3 回 TSUBASA PROJECT

東京女子医科大学東医療センター内科・血液浄化部: 西沢蓉子先生

・第 4 回 TSUBASA PROJECT

兵庫医科大学循環器・腎透析内科学: 木村稚菜先生

首里城下町クリニック第二/第一: 新川葉子先生

順天堂大学医学部附属静岡病院腎臓内科: 林 陽子先生

葉山ハートセンター腎臓内科：福内史子先生

東京女子医科大学東医療センター泌尿器科：山下かおり先生

名古屋第二赤十字病院移植・内分泌外科：大迫希代美先生

・第5回 TSUBASA PROJECT

琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学：普久原智里先生

東京慈恵会医科大学附属病院腎臓・高血圧内科：土谷千子先生

東京女子医科大学血液浄化療法科：塚田三佐緒先生

北海道大学病院内科Ⅱ：西尾妙織先生

・2020年度透析専門医勤務・診療状況ならびに透析専門医の男女共同参画の実態に関するアンケート調査報告

順天堂大学総合診療科：濱田千江子先生

② 2020年度透析専門医勤務・診療状況ならびに透析専門医の男女共同参画の実態に関するアンケート調査報告（筆頭著者：濱田千江子先生）が透析会誌 2021；54(8)：391-6. に掲載された.

③ 第6回 TSUBASA PROJECT として、以下の3名を研究者として選出し研究を進めており、第67回日本透析医学会学術集会・総会において研究報告を行う予定である.

・琉球大学病院第三内科：大城菜々子先生「維持透析患者における SLE 患者の性差」

・豊島病院：笠木祐里先生「SGLT2 阻害薬の腎保護効果に影響を与える因子の検討」

・中島土谷クリニック：真島菜々子先生「透析患者の動脈硬化の進展と差異について」

15. 感染対策委員会

- 1) 2020年8月20日より発足した常置委員会である感染対策委員会は、2021年度は引き続き、日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会において、透析患者の感染状況の報告を取りまとめ、開示し得る情報や感染対策などをホームページにて開示した.
- 2) 2021年3月の理事会で承認され、本委員会において、透析患者の COVID-19 の治療法についてアンケートを2021年7月に施行した. 2022年3月末の時点で、当学会英文誌である RRT に投稿し査読中であったが、2022年4月2日の時点で受理された.
- 3) 2021年5月15日の理事会において承認され、6月26日に倫理委員会で承認された「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時変化」という本委員会による研究を開始し、遂行中である. 当初の計画では2回目のワクチン接種後1年後に測定を予定していた. しかし、3回目の接種による効果を検討するため、3回目の接種3週間後、3カ月後を追加し、2回目の接種1年後は中止と研究計画の変更をした. また、免疫の低下している透析患者では抗体値が高値であっても、感染が重症化する可能性が指摘されている. そのため、細胞性免疫の評価として TSPOT[®] COVID の測定も同時に行うことで、透析患者のワクチンによる感染防御能についてより詳細に検討することを理事会に提案し、12月13日の倫理委員会で承認された. 追加研究も遂行中である. 2回接種3か月後までの抗体価に関する論文は2022年3月末の時点で作成中.
- 4) 第66回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画「COVID-19 感染を振り返る」と題して発表を行った.
- 5) 第67回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画「透析患者における COVID-19~2年半を振り返って~」と題して事業計画のように企画した.

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	武本佳昭	令和3年6月3日～ 令和4年6月30日の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
理事	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	小川哲也	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
同	高橋直子	同	非常勤	なし	
同	谷口正智	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	中元秀友	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会 理事長, 特定非営利活動法人 LINE 理事長
同	花房規男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会 代表理事
同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本 CKD-MBD 研究会 代表理事
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	
同	政金生人	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本在宅血液透析学会 理事長
同	満生浩司	同	非常勤	なし	
同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	
同	脇野修	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	内田潤次	令和3年6月3日～ 令和4年6月30日の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	大矢昌樹	同	非常勤	なし	
同	清野耕治	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	令和2年6月11日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	安藤孝	同	非常勤	なし	
7	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
8	同	家原典之	同	非常勤	なし	
9	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
10	同	池田直史	同	非常勤	なし	
11	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
12	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
13	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
14	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
15	同	石田真理	同	非常勤	なし	
16	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
17	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
18	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤裕	同	非常勤	なし	
21	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
22	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
23	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
24	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
25	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
26	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
27	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
28	同	内田信一	同	非常勤	なし	
29	同	大島直紀	同	非常勤	なし	
30	同	大田和道	同	非常勤	なし	
31	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
32	同	大矢昌樹	同	非常勤	なし	
33	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
34	同	岡田一義	同	非常勤	なし	
35	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
36	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
37	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
39	同	小川智也	同	非常勤	なし	
40	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
41	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
42	同	風間順一郎	同	非常勤	なし	
43	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
44	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
45	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
46	同	要伸也	同	非常勤	なし	
47	同	金山博臣	同	非常勤	なし	
48	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
49	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
50	同	神家満学	同	非常勤	なし	
51	同	亀井大悟	同	非常勤	なし	
52	同	川合徹	同	非常勤	なし	
53	同	菅政治	同	非常勤	なし	
54	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
55	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊地勘	同	非常勤	なし	
57	同	菊池早苗	同	非常勤	なし	
58	同	木田有利	同	非常勤	なし	
59	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
60	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
61	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
62	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
63	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
64	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
65	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
66	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
67	同	古波蔵健太郎	同	非常勤	なし	
68	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
69	同	駒場大峰	同	非常勤	なし	
70	同	小薮助成	同	非常勤	なし	
71	同	今裕史	同	非常勤	なし	
72	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
73	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
74	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
75	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
76	同	酒井行直	同	非常勤	なし	
77	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
79	同	佐々木 環	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤 真理子	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 祐二	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
86	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
87	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
88	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
89	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
90	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
93	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
98	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
99	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
100	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
101	同	高橋 計行	同	非常勤	なし	
102	同	高橋 直子	同	非常勤	なし	
103	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
104	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
105	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
106	同	竹岡 浩也	同	非常勤	なし	
107	同	竹中 恒夫	同	非常勤	なし	
108	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
109	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
110	同	田中 伸枝	同	非常勤	なし	
111	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
112	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
113	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
114	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
115	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
116	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
117	同	塚田 三佐緒	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	辻本吉広	同	非常勤	なし	
119	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
120	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
121	同	土井研人	同	非常勤	なし	
122	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
123	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
124	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
125	同	友雅司	同	非常勤	なし	
126	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
127	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
128	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
129	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
130	同	仲川嘉紀	同	非常勤	なし	
131	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
132	同	長田太助	同	非常勤	なし	
133	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
134	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
135	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
136	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
137	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
138	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
139	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
140	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
141	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
142	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
143	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
144	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
145	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
146	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
147	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
148	同	新田豊	同	非常勤	なし	
149	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
150	同	野口智永	同	非常勤	なし	
151	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
152	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
153	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
154	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
155	同	服部元史	同	非常勤	なし	
156	同	花房規男	同	非常勤	なし	
157	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	早川和良	同	非常勤	なし	
159	同	林晃正	同	非常勤	なし	
160	同	林秀樹	同	非常勤	なし	
161	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
162	同	原田浩	同	非常勤	なし	
163	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
164	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
165	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
166	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
167	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
168	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
169	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
170	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
171	同	藤森明	同	非常勤	なし	
172	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
173	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
174	同	前田益孝	同	非常勤	なし	
175	同	前野七門	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
178	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
179	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
180	同	松下和通	同	非常勤	なし	
181	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
182	同	松原雄	同	非常勤	なし	
183	同	丸山彰一	同	非常勤	なし	
184	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
185	同	水野正司	同	非常勤	なし	
186	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
187	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
188	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
189	同	水口齐	同	非常勤	なし	
190	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
191	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
192	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
193	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
194	同	向山政志	同	非常勤	なし	
195	同	村上円人	同	非常勤	なし	
196	同	森建文	同	非常勤	なし	
197	同	森下義幸	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	矢島愛治	同	非常勤	なし	
199	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
200	同	山縣邦弘	同	非常勤	なし	
201	同	山川智之	同	非常勤	なし	
202	同	山下明泰	同	非常勤	なし	
203	同	山下芳久	同	非常勤	なし	
204	同	山田保俊	同	非常勤	なし	
205	同	山中正人	同	非常勤	なし	
206	同	山本卓	同	非常勤	なし	
207	同	横地章生	同	非常勤	なし	
208	同	吉田理	同	非常勤	なし	
209	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉本充	同	非常勤	なし	
211	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
212	同	頼建光	同	非常勤	なし	
213	同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	
214	同	脇野修	同	非常勤	なし	
215	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
216	同	和田篤志	同	非常勤	なし	
217	同	和田隆志	同	非常勤	なし	
218	同	和田健彦	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	22名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	218名	なし	
合計	243名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2022年3月31日現在	2021年3月31日現在		
正 会 員	14,049	13,993	56	
施設会員	4,151	4,140	11	
賛助会員	62	62	0	
名誉会員	49	49	0	
計	18,311	18,244	67	

③ 職員に関する事項

令和3年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	坂 入 幸 雄	平成30年 4月1日	総括管理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年5月15日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 日本透析医学会定款第13条第1項, 第2項に基づく役員を選任に関する件 3. 日本透析医学会定款施行細則第10条第2項に基づく推薦枠理事候補者の推薦に関する件 4. 令和3年度日本透析医学会賞(木本賞)・奨励賞の選考に関する件 5. 令和2年度事業報告(案)に関する件 6. 令和2年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 7. 令和3年度監事による監査報告に関する件 8. 第66回通常総会開催に関する件 9. 第66回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第(案)に関する件 10. 統計調査委員会関係 11. 国際学術交流委員会報告 12. 第6回TSUBASA PROJECTの募集に関する件 13. 第66回(令和3年)学術集会・総会に関する件 14. 第67回(令和4年)学術集会・総会に関する件 15. 第68回(令和5年)学術集会・総会に関する件 16. 日本急性血液浄化学会と本学会のジョイントシンポジウムの開催について 	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和3年6月3日 第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 日本透析医学会新役員選挙要項第4項 選挙立会人候補者2名(本学会正会員)の指名に関する件 3. 第66回通常総会の進行に関する件 4. 2020年度第31回専門医認定試験を延期したことによる対応に関する件 5. 統計調査のデータを用いた研究論文をホームページに掲載する件 6. 日本医学会分科会活動報告に関する件 7. 第67回(令和4年)学術集会・総会に関する件 	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年6月3日 第2回理事会	8. 第68回（令和5年）学術集会・総会に関する件 9. 透析患者における新型コロナウイルス感染症治療に関する実態調査に関する件 10. 透析患者の新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価の測定の提案に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和3年6月3日 第3回理事会	1. 理事長（代表理事）選定の件 2. 常任理事の選定の件 3. 常置委員会委員長・小委員会委員長及び委員の委嘱に関する件 4. 対外委員に関する件 5. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和3年7月31日 第4回理事会	1. 入会・退会に関する件 2. 常置委員会 委員長, 小委員会委員長等および委員に関する件 3. 対外委員に関する件 4. 2021年度補正予算（案）に関する件 5. 2021年度セルフトレーニング問題採点結果に関する件 6. 規程等の策定に関する件 7. 規程等の一部改正に関する件 8. 統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規に基づく研究に関する件 9. 危機管理委員会報告「透析災害対策のアップデート」の作成に関する件 10. 人工腎臓透析用剤の安定供給の要望に関する件 11. 安定確保医薬品の選定, カテゴリ設定と供給不足が生じた場合の診療の選択肢の提示の検討について 12. 活性型ビタミンD3製剤の一時供給停止に伴う出荷調整に対する安定供給についての対応に関する件 13. 人工血管内シャントの静脈側吻合部における狭窄又は閉塞に対するゴアバイア バーンステントグラフトの適正使用指針策定関連学会への加盟に関する件 14. 「敗血症診療ガイドライン2020」に関する件 15. 第67回（令和4年）学術集会・総会に関する件 16. 第68回（令和5年）学術集会・総会に関する件 17. 第69回（令和6年）学術集会・総会に関する件 18. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和3年12月10日 第5回理事会	1. 入会・退会に関する件 2. 幹事の推薦に関する件 3. 第67回学術集会・総会の予算（案）に関する件 4. 第68回学術集会・総会の予算（案）に関する件 5. 第69回学術集会・総会の予算（案）に関する件 6. 第70回（2025年）次次次期会長選出に関する件 7. 日本腎代替療法医療専門職推進協会に関する件 8. 公益社団法人日本臨床工学技士会外部役員（理事）候補の推薦について 9. 2022年度事業計画, 概算要求及び2021年度事業報告の作成に関する件 10. 規則等の制定に関する件 11. 規則等の一部改正に関する件 12. 専門医制度委員会関係 13. 「新型コロナウイルス感染症ワクチン接種により得られる抗体価の経時的变化」に関わる臨床研究の研究計画等の変更に関する件 14. 第6回TSUBASA PROJECT参加者に関する件 15. 2021年末 統計調査資料に関わる誤配送に関する件 16. （事後審議）「慢性腎臓病（透析患者含む）および腎移植患者に対する暴露前の抗体療法予防投与に関する要望書」の提出について 17. Renal Replacement Therapy (RRT) 誌に関する件 18. 台湾, 韓国, 本学会3学会合同シンポジウムの開催について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 3 年 10 月 11 日	9. SharE-RR への継続参加 10. JRDR 研究の HP 公開 (統計調査データを二次利用した研究等) 11. WADDA システム 12. 解析小委員会報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 1 月 17 日	1. 2021 年調査 進行状況報告と確認事項 2. 2020 年現況 CD-ROM 帳票について 3. 2020 年現況報告 作成状況の報告 4. 2020 年データの WADDA システム取込み予定 5. 2019 年現況報告の RT 投稿 6. RRT への投稿方法について 7. 日本透析医学会統計調査システム等の取り扱いに関する規程 (案) 8. 次年の事業計画の検討 9. 第 66 回日本透析医学会 委員会企画 10. 解析小委員会報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 3 月 14 日	1. 第 67 回日本透析医学会 委員会企画 (案) 2. 2021 年度事業報告の確認と 2022 年度事業計画の検討 3. 2021 年調査の経過報告と今後のスケジュール 4. 日本透析医学会統計調査システム等の取り扱いに関する規程について 5. データの提供依頼 6. 解析小委員会からの報告 7. SharE-RR 報告 8. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 3 月 14 日	1. 2021 年調査の経過報告と今後のスケジュール 2. 会員以外への情報提供の範囲について 3. 2021 年度事業報告の確認 4. 2022 年 (次年) 調査について 5. WADDA システム (研究切り出しシステム) 6. 統計調査データに時利用に関する規程の周知について 7. 公募研究の再開について 8. 第 7 回日本透析医学会 委員会企画 (案)	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 専門医制度委員会 令和 3 年 11 月 19 日	1. 2021 年度認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査結果報告について 2. 専門医制度規則施行細則の一部改正 (案) について 3. その他, 報告事項	全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認
令和 4 年 3 月 5 日	1. 2022 年 3 月 31 日までの専門医更新申請審査結果について 2. 2021 年度 第 32 回指導医認定申請 審査結果について 3. 認定期限 2022 年 3 月 31 日までの指導医更新申請 審査結果について 4. 地方学術集会, 生涯教育プログラム, 全国規模学術集会について 5. その他, 報告事項	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認
・ 国際学術交流委員会 令和 3 年 10 月 22 日	1. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画について	全会一致で承認
令和 4 年 1 月 7 日	1. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会のプログラムに関する件	全会一致で承認
・ 評議員選出委員会 令和 3 年 9 月 6 日	1. 第 6 回評議員選出日程 (案) について 2. 評議員選出公示について 3. 地方区定数公示について 4. 有権者名簿の公示について 5. 評議員立候補申請書について 6. 評議員選出規則第 21 条関係について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 3 年 12 月 6 日	1. 会告 第 6 回評議員選挙の立候補者について 2. 第 6 回評議員立候補者数について 3. 会告 第 6 回評議員選挙立候補者氏名について 4. 立候補条件抵触者の取扱いについて 5. 有権者異議申し立て者の取扱いについて 6. 会告 第 6 回評議員選挙の有権者の訂正及び追加について 7. 投票用紙及び投票に関する注意事項について 8. 開票立会人の選出について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 4 年 2 月 21 日	1. 開票立会人について 2. 第 6 回評議員選出に関わる開票について 3. 第 6 回評議員当選に関わる公示について 4. 選挙効力に関して異議の申し立てについて 5. 当選者の繰上げ, 補充について 6. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・ 保険委員会 令和 3 年 4 月 14 日	1. 外保連医療技術評価提案書の提出について 2. 外保連主管学会の移行について 3. 内保連医療技術再評価提案書の提出について 4. 透析施設感染管理加算の要求について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 倫理委員会 令和 3 年 6 月 25 日	1. 感染対策委員会「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」に関する臨床研究の実施について 2. 日本透析医学会倫理委員会規程の一部改正（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認
令和 3 年 9 月 17 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
令和 3 年 12 月 23 日	1. 感染対策委員会「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」に関する臨床研究の実施について（研究計画の追加・修正）	全会一致で承認
令和 4 年 3 月 30 日	1. 「透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する調査」の研究実施予定期間の延長および実施計画書の一部変更について	全会一致で承認
・ 腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・ 危機管理委員会 令和 3 年 11 月 23 日	1. 令和 2 年度議事録について 2. 日本医療安全調査機構への協力について 3. 第 67 回学術集会・総会の災害対策小委員会の委員会企画 4. 第 67 回学術集会・総会の医療安全小委員会の委員会企画 5. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 研究者の利益相反等 検討委員会 令和 3 年 9 月 29 日 令和 4 年 2 月 12 日	1. 利益相反事項自己申告書の確認について 1. 日本透析医学会研究者の利益相反等検討委員会の改定の流れについて 2. 日本透析医学会の利益相反（COI）申告様式（様式 2：日本透析医学会雑誌）の改正について 3. 日本医学会 COI 管理ガイドライン（一部改定案）について 4. ガイドライン 2022 年版として加筆した項目と内容の概要について 5. 日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針の一部改正（案）について 6. 日本透析医学会「医学研究の利益相反に関する指針」に関する取扱い細則の一部改正 7. 日本透析医学会の利益相反（COI）申告様式（様式 1, 様式 3～4）の一部改正（案）について	全会一致で承認 報告・承認 全会一致で承認 報告・承認 報告・承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・男女共同参画推進委員会 令和 3 年 12 月 3 日 令和 4 年 3 月 3 日	1. 第 6 回 TSUBASA PROJECT について 1. 第 7 回 TSUBASA PROJECT の実施について	全会一致で承認 全会一致で承認
・感染対策委員会	「該 当 な し」	

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申 請 事 項	許可等月日	備 考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相 手 方	契 約 の 概 要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係	
理事長	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	監 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部	
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部	
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	副理事長	一 部	
		大阪透析研究会	幹 事	一 部	
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部	
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部	
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部	
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎血液浄化 AI 学会	監 事	一 部	
	理 事	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		酒 井 謙	一般社団法人 日本腎移植学会	幹 事	ほぼ同一
公益社団法人 日本透析医会			幹 事	ほぼ同一	
一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会			理 事	一 部	
高 橋 直 子		特定医療法人 あかね会	理 事	関係なし	
		医療法人社団 誠風会	理 事	関係なし	
谷 口 正 智		日本 CKD-MBD 研究会	理 事	一 部	
中 元 秀 友		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部	
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 腎臓病臨床経済協議会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 LINE	理事長	一 部	
花 房 規 男		一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部	
	一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	一 部		
	特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部		
	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部		

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	花 房 規 男	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	深 川 雅 史	一般社団法人 日本 CKD-MBD 研究会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
	政 金 生 人	一般社団法人 日本在宅血液透析学会	理事長	ほぼ同一
		医療法人社団 清永会	理 事	関係なし
満 生 浩 司	一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	常任理事	一 部	
監 事	内 田 潤 次	公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床腎臓移植学会	理 事	一 部
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	一 部
	大 矢 昌 樹	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理 事	ほぼ同一
	清 野 耕 治	一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。